

倶多楽の火山活動解説資料（令和4年12月）

札幌管区气象台
地域火山監視・警報センター

火山活動は静穏に経過しており、噴火の兆候は認められません。
噴火予報（噴火警戒レベル1、活火山であることに留意）の予報事項に変更はありません。

○活動概況

・噴気など表面現象の状況（図1、図2-①、図3～4）

9日に実施した現地調査では、昨年（2021年4月）の観測と比べて、笠山における地熱域の広がりや地中温度の分布には特段の変化は認められませんでした。

監視カメラによる観測では、日和山山頂爆裂火口の噴気の高さは火口縁上100m以下で経過しており、噴気活動は低調な状態です。

・地震及び微動の発生状況（図2-②）

火山性地震は少なく、地震活動は低調な状態です。

火山性微動は観測されていません。

・地殻変動の状況（図5）

GNSS連続観測では、2017年頃から倶多楽周辺の地殻変動を示すと考えられる変化と停滞を繰り返しています。

この火山活動解説資料は、気象庁のホームページでも閲覧することができます。

https://www.data.jma.go.jp/vois/data/tokyo/STOCK/monthly_v-act_doc/monthly_vact.php

本資料で用いる用語の解説については、「気象庁が噴火警報等で用いる用語集」を御覧ください。

<https://www.data.jma.go.jp/vois/data/tokyo/STOCK/kaisetsu/kazanyougo/mokuji.html>

この資料は気象庁のほか、国土地理院及び北海道大学のデータも利用して作成しています。

資料中の地図の作成に当たっては、国土地理院発行の『数値地図50mメッシュ（標高）』、『数値地図25000（行政界・海岸線）』、『電子地形図（タイル）』及び『基盤地図情報』を使用しています。

次回の火山活動解説資料（令和5年1月分）は令和5年2月8日に発表する予定です。



図1 倶多楽 南西側から見た日和山、大湯沼及び地獄谷周辺の状況（414m山監視カメラによる）

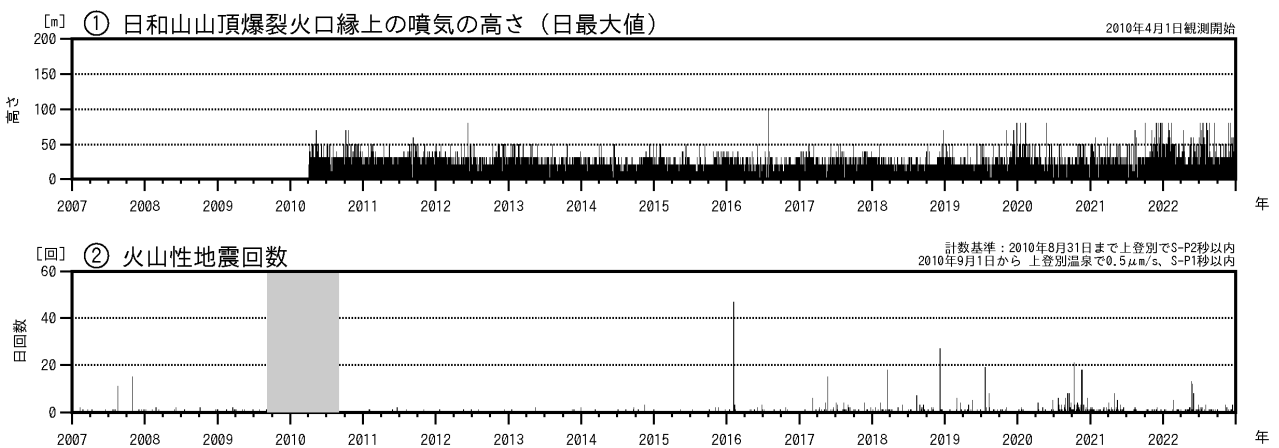


図2 倶多楽 火山活動経過図（2007年1月～2022年12月）
②の灰色部分は機器障害による欠測期間を示します。

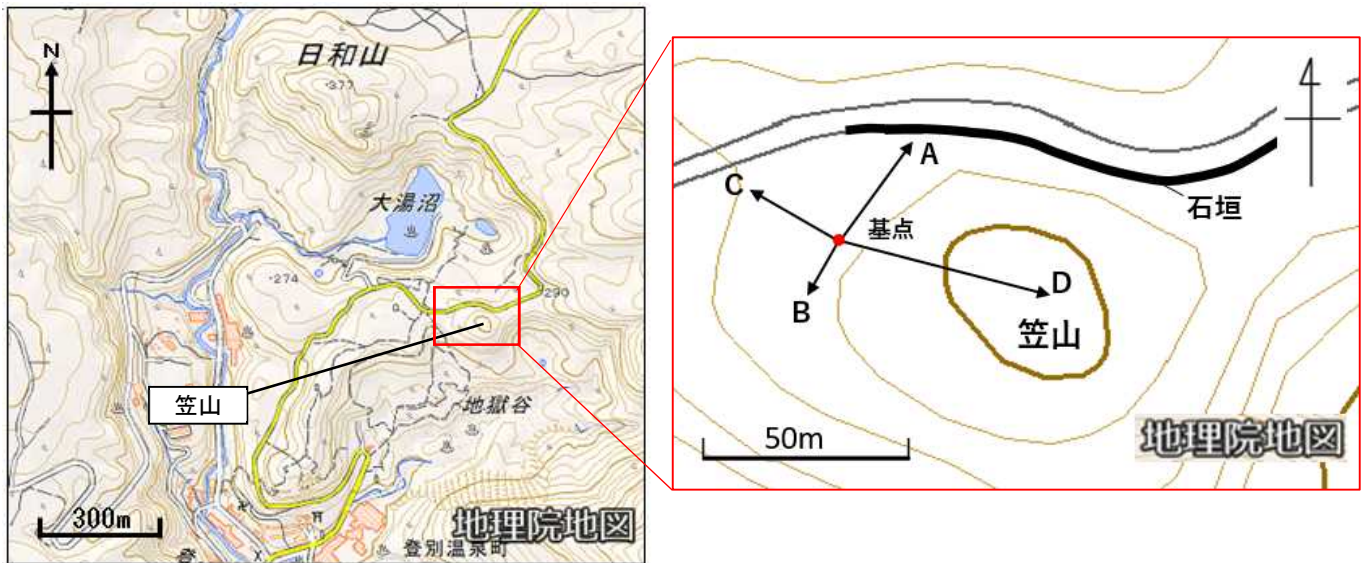


図3 倶多楽 周辺図（左図）及び笠山における測線観測の基点と測線の方向（右図）
 右図において、黒矢印は測線観測の測線の位置を示します。

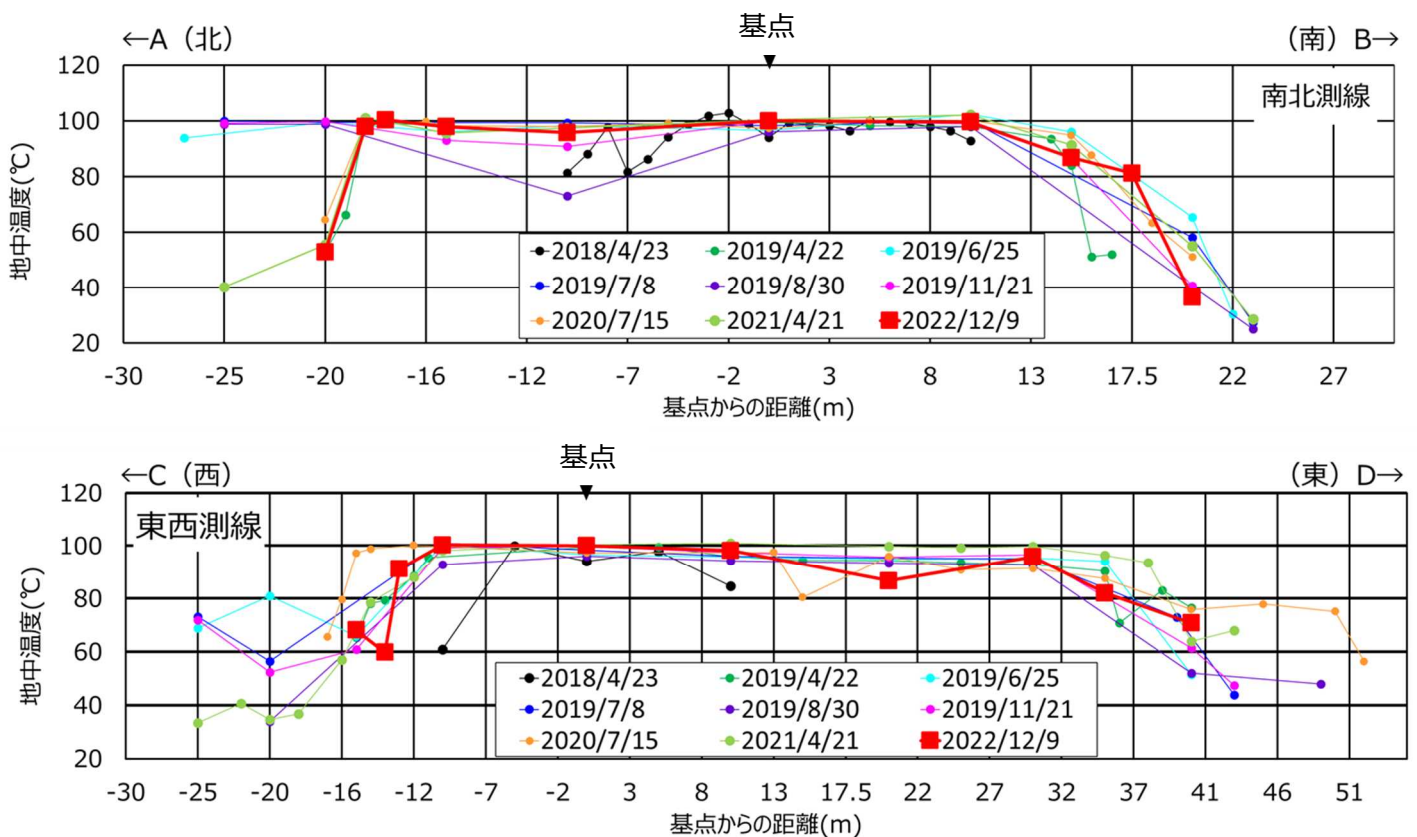


図4 倶多楽 笠山の測線上の地中温度分布の変化（2018年4月～2022年12月）
 基点から東西南北方向の測線上1～10m間隔で、地表面から50cmの深さの地中温度を、熱電対温度計を用いて測定しています。

・これまでの観測と比較して、90°C以上の領域の広がりの特段の変化は認められませんでした。

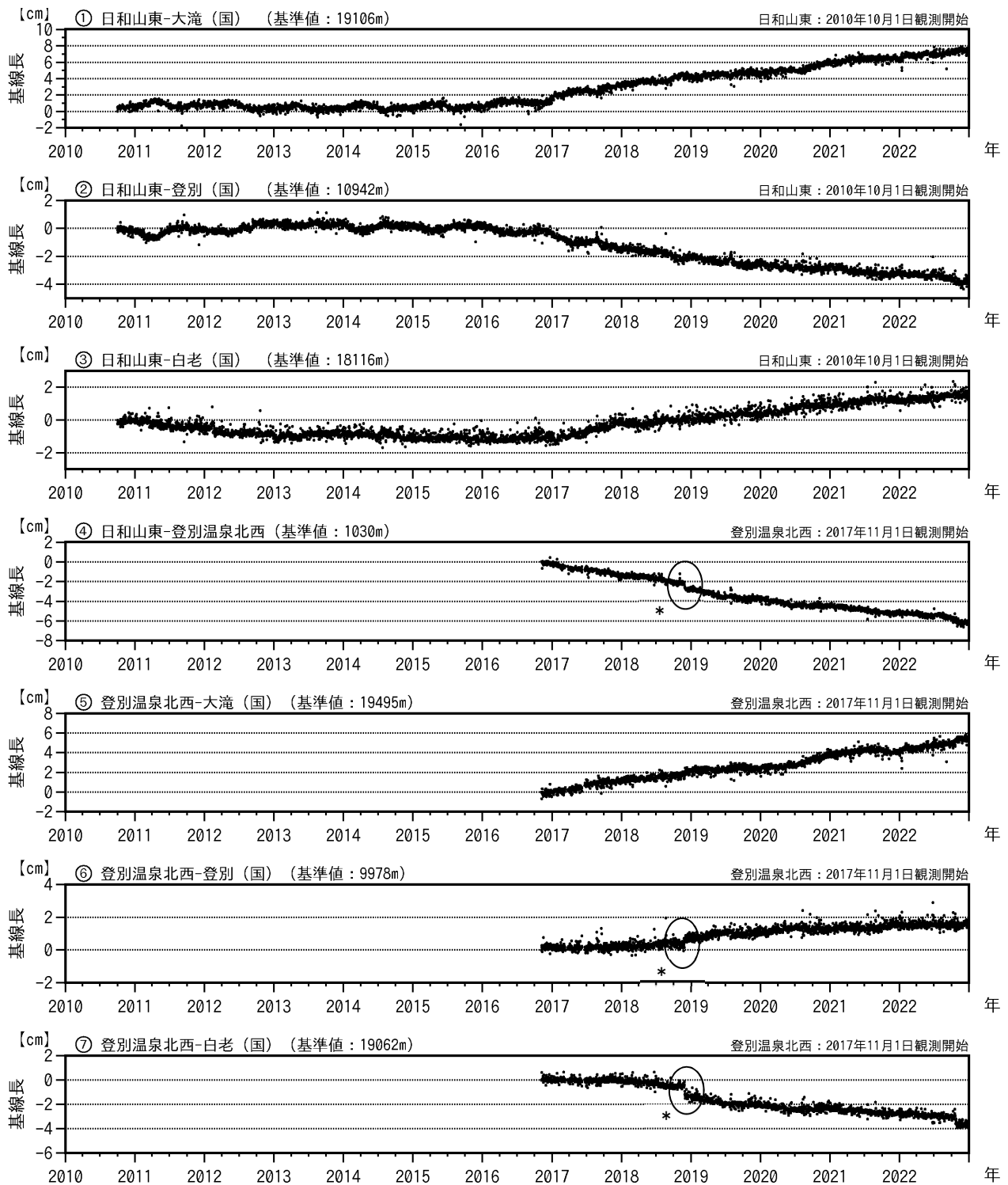


図5 倶多楽 GNSS連続観測による基線長変化（2010年10月～2022年12月）
 グラフ①～⑦は観測点配置図（図6）の基線①～⑦に対応しています。
 ④、⑥及び⑦の楕円内の変動（*）は、登別温泉北西観測点の局所的な動きによるものと
 考えられます。

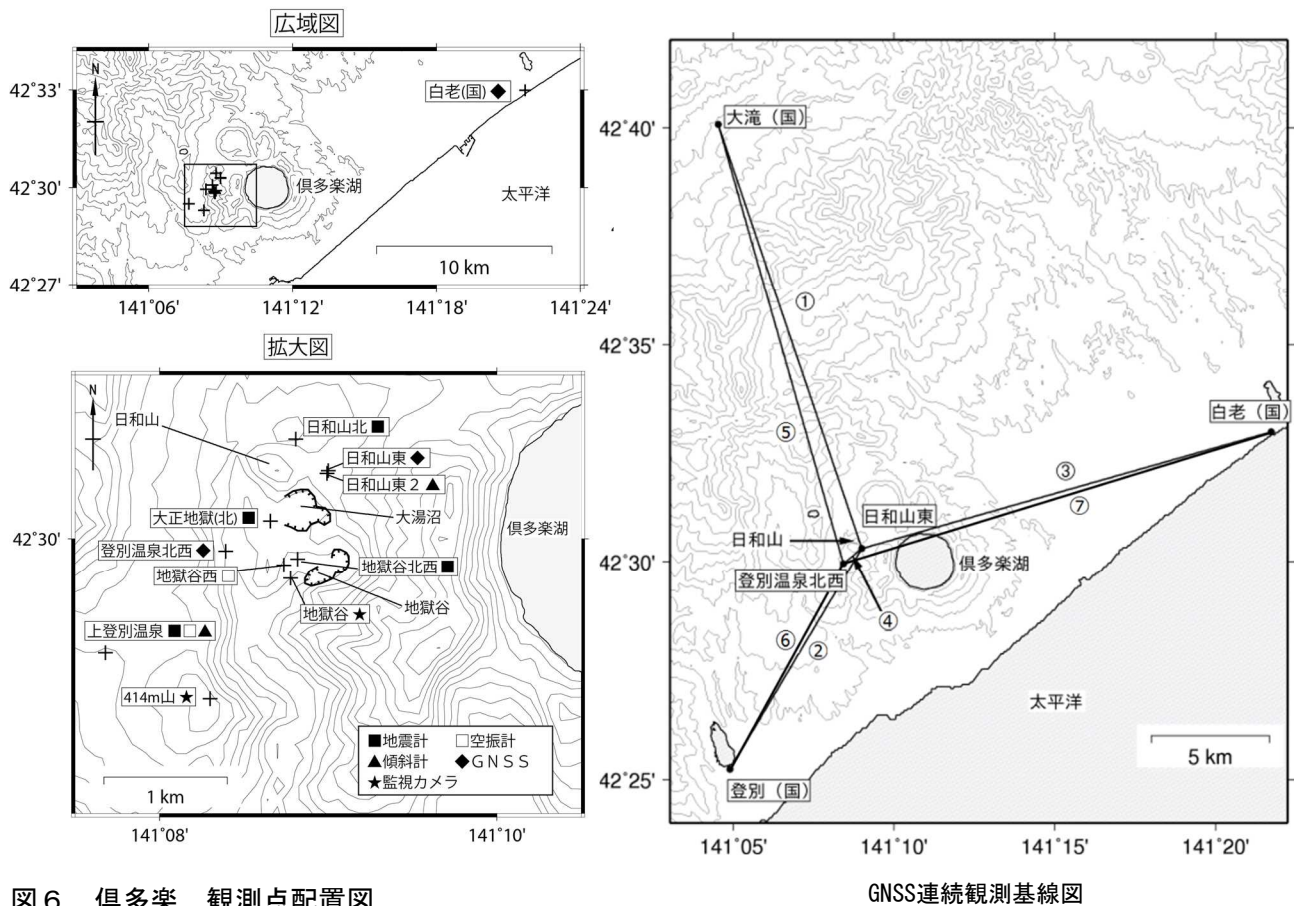


図6 倶多楽 観測点配置図

広域図内の太枠線は拡大図の範囲を示します。

+印は観測点の位置を示します。

気象庁以外の機関の観測点には以下の記号を付しています。

(国)：国土地理院 (北)：北海道大学